

感謝祭ミーティング議事録

01.キックオフミーティング

日 時：令和5年5月31日 18:30～19:40 @西部公園緑地事務所別棟会議室

参加者：アートキャスト 16名（アート 13、パフォーマンス 3）事務局 3名（榎原事務局長、小西、柳）

0. 冒頭 事務局長挨拶

1. 井の頭感謝祭 2022 の総括

事務局から別紙感謝祭に関するご意見のまとめを紹介。

多く寄せられた意見について事務局の現時点での見解を説明。

▶2日間開催については、人手次第。今年度は都立公園 150 周年事業があり、2日間の職員動員は難しい。早期からボランティア募集を検討。土曜日開催で日曜日を順延予備日とするか、土日 2日間開催かは現時点では確定できない。人手が確保できなければ一日開催となる。マンパワーが必要なところは委託も考慮しながら進めていく。

▶他イベントとの日程調整については、デザインフェスタの日程が11月11日、12日と発表された為、**感謝祭 2023 開催は 11月18日（土）、19日（日）の週で確定**としたい。

▶プログラムについては、お買い物特典のシステムがわかりにくいという点が検討課題。予算次第というところでは、ステージ音響は準備する方向で進める。（テントのレンタルをやめて浮く分や、150周年事業の予算が見込める予定）

▶パンフレットについては、ペーパーレスに挑戦するという初の試みであったが、来園者への口頭説明に苦労したとの声が寄せられたので今年度は検討課題とする。

▶ホームページについては、好評で、いつもマップやカレンダーなど表示されたら良いとの声が寄せられている。今年度も引き続きホームページでの情報発信はしていく。

<ここまでの説明に対する意見>

- ・ 荒天中止（小雨決行）という可能性もありではないか。←（事務局）プログラム次第だが可能性はあるだろう。
- ・ 早めに開催日程をお知らせすることが大事。
- ・ 本来は「何のためのやるイベントなのか」というコンセプトを決めてから次に予算の話に

なるという進め方である。予算ありきだとネガティブになる。限られた時間の中で進めていくので難しい部分もあるとは思うが。

- ・学生ボランティアは、能力を期待するのではなく、感謝祭で若い人の宝となる体験の機会を提供できることが大切。都民協働であるアートマーケットのお祭りとしてふさわしい形。

- ・個人的にイベントスタッフのつながりがある。キャスト知人からボランティア参加は可能か。交通費くらいは出せたら嬉しい。

- ・各キャストが知人にボランティア募集の声掛けくらいしてもよいのでは。学生ボランティアも一つの大学のゼミにこだわらず、広く声を掛ければよい。一刻も早く開催日程を告知することが大事。コンセプト詰めやキーワードを決めるのは後からでよい。←（事務局）ボランティア募集のチラシは作成している。早めに募集の告知を進めていきたい。

- ・感謝祭は“皆でつくりあげる”ことに意味がある。都が体験の場所を提供する機会に。

- ・ボランティアは学生でなくてもよいか。大人でも可か。←（事務局）あまりに年齢が低いと不安もあるので大学生以上を考えている。

- ・感謝祭の予算は登録料もつかっているか。予算が確保できなかったときに原資がゼロになってしまわないか。←（事務局）サポーター基金や、今年度は150周年記念の予算も確保できるかもしれないが、登録料も充てている。

- ・業者委託は感謝祭にはそぐわない気がする。←（事務局）広告代理店をいれて、プログラムの企画まで委託するようなことは考えていない。主体は皆さんアートキャストである。マンパワーが必要な部分は委託も含め検討し、ボランティアがいれば企画参加いただきたい。

- ・企画とはどういうことか。ボランティアの作業内容が整理整頓や交通整理の様な内容に聞こえる。募集時に、どのようなボランティアを募集するのか具体的に書かれている方がよい。

- ←（事務局）ボランティアブースなども考えている。オリジナル企画で一プログラムとしてもよい。

- ・ステージ企画はキャストだけでなく地域の人に参加できるコーナーにできないだろうか。近隣大学等のダンスサークルを誘うなど。コロナで発表の機会が減ったりしている。井の頭公園のステージに立てる貴重な機会であろう。

- ・アートキャストは事前に協力を申し出る方は意外と少ない。感謝祭当日、通常出展している中で何かあれば手伝うという方は多いが。

- ・チャレンジ出展についてキャストから意見をあずかっている。一般の方が、企画から運営に協力いただくことを条件に、感謝祭当日に出展を体験できるという企画にするのも良いだろう。アートマーケットに興味がある方への働きかけになる。←（事務局）この様な、プログラムに関する提案、ボランティアの活躍の場をどこまでにするかという線引き等、具体的な企画は今後決めていけると良い。日程についても、2日開催で一日プログラムを2回やるのか、2日間別のプログラムを組むのか、延期日としての候補日にするのかの検討もあるかと思う。

- ・「何のためにやるのか」ということが欠落している。コンセプト・テーマがわかりやすく

決まらないと、実施後も成功したかがわかりにくい。コンセプトが決まればプログラムは自ずと決まっていくもの。

・アートキャストがボランティアへメリットを提供しても良いのでは。似顔絵を描いていて色々なイベントに参加する際、お手伝いのスタッフへ似顔絵を描いて渡している。キャストができることでメリットを提供できるのでは。

・通常開催のアートマーケットでは、手づくり品を買ったり、パフォーマンスを観たりしてもらえが、感謝祭は来園者が自らが体験できる・参加できる機会としたい。

・キャストから企画を募ってできることと、事務局が運営上決める事の分けをはっきりと示してほしい。企画できる範囲がわかれば、自由に思い切り提案できる。

・今日この早い時期に集まったことがひとつ成果といえる。次回はわかりやすいコンセプト、実行しやすいテーマを探る会にしたい。

・去年の反省点として、雨天中止となった当日の朝、イベント中止に関する園内放送なども聞こえず、テントに貼られた中止の掲示も目立たなかったのも、ウロウロする方が見受けられた。中には景品引換券を持っている方もいた。テントのところに警備員が2人いたが案内をせず警備員通しで話していて、尋ねられてもはっきりとした案内ができていなかった。←配置されていた警備員はテントやレンタル什器を見張る臨時警備。イベント中止の案内が不足していたので反省点としたい。

2. 井の頭感謝祭 2023 の進め方

- ・早い段階で開催日程を告知する
- ・ボランティア募集を早くから動く
- ・予算を確保（現在奔走中）
- ・企画検討のミーティングを1か月～2か月に1回程度で開催予定
- ・具体的な内容の検討はコンセプトが決まってから行う

3. コンセプト案の募集について

- ・次回ミーティングでコンセプト・テーマ検討（日程は別途通知）

要点まとめ

- ・開催日程は令和5年11月18日（土）、19日（日）※1日開催か、2日開催かは今後決定
- ・企画検討のミーティングを定期的で開催する
- ・早期に開催日程を告知する
- ・早期にボランティア募集を働きかける
- ・次回ミーティングでコンセプトを検討（日程は別途通知）